



2026

DISCLOSURE



あなたのあしたに
西京銀行

2026 DISCLOSURE

Contents

ごあいさつ	1
経営方針	2
西京銀行について	3
2026年3月期財務ハイライト(単体)	4
中小企業の経営改善および 地域活性化のための取組みの状況	5
サステナビリティに関する 考え方および取組み	10
業務のご案内	16
役員一覧	17
会計監査人	17
従業員の状況	17
組織図	18
店舗のご案内	19
店舗外ATM設置場所	20
当行の考え方	21
会社の沿革	29
資料編	30
法定開示項目	105



会社概要

2026年3月31日現在	
名 称	株式会社西京銀行
所 在 地	周南市平和通1丁目10番の2
創 業	1930年
総 資 産	2兆6,693億円
預 金	2兆1,714億円
貸 出 金	1兆8,796億円
資 本 金	284億円
店 舗 数	32店舗 店舗内店舗形式での店舗統合による実質店舗数
従 業 員 数	600名 (注) 従業員数は、嘱託及び臨時従業員 59名を含んでいません。

ごあいさつ

皆さま方には、平素より西京銀行に格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当行では、長期ビジョンである「地域に根差した中小規模事業者さまと個人のお客さまのための銀行」の実現に向け、2025年4月から2028年3月まで（3カ年）を計画期間とする中期経営計画を策定し、取り組みを開始しました。

引き続き、山口県を中心とした地元の預金、貸出金シェアの向上と同時に、『地域のシンクタンクになる！』という本計画のコンセプトに基づき、地域課題や地元中小規模事業者さまの経営課題の解決に向けたコンサルティング活動に積極的に取り組みました。

その結果、預金・貸出金残高ともに、過去最高残高を更新し、当期純利益は6期連続で最高益となりました。

当行の主たる営業エリアである山口県は、人口減少・高齢化の進展により、中長期的に事業環境の厳しさが増すことが見込まれます。

また、米国の通商政策や中東情勢を背景とした資源価格、国際金融市場の動向についても、引き続き注視が必要と認識しています。

こうした環境下において、当行は、本計画で掲げた「地域のシンクタンクになる！」というコンセプトのもと、地元事業者さまや個人のお客さまの多様な課題やニーズに積極的に取り組み、これまで以上に地域のお役に立つ銀行を目指してまいります。

具体的には、地元事業者さまに対しては、中東情勢の不安定化に伴うエネルギー価格の高騰などによる物価高への対策として、コスト削減に資する補助金活用およびIT・DXコンサルティングを積極的に推進していきます。

また、人財不足への対応や海外進出ニーズに関しては、2026年4月にインドネシア現地法人「PT SAIKYO CONSULTING INDONESIA」を設立し、さらに実効性の高いコンサルティングサービスを提供していきます。

個人のお客さまに対しては、ご好評をいただいている「さいきょうの定期預金」や「退職金定期預金」における金利上乘せを継続するほか、スマホバンキングの全面刷新による操作性の向上や機能拡充を通じて、預金口座の利便性向上を図るなど、商品・サービスのより一層の充実に取り組んでまいります。

当行は、これからも「金融を通じて地域の皆さまのお役に立つ」というミッションの下、一人でも多くのお客さまにお取引いただける銀行を目指し、引き続き努力してまいります。



2026年7月 取締役頭取 松岡 健